9　消耗部品の交換方法

日々の作業を安定して能率的に行うために、作業前・作業後のメンテナンス・早い時期の消耗部品の交換をお勧めいたします。
以下の「消耗部品の交換方法」をよくお読みいただき、正しく作業を行ってください。

⚠ 警告　消耗部品の交換やメンテナンスを行う時は、必ず電源プラグを手で持ってコンセントから抜き、作業を行ってください。プラグを差し込んだまま作業を行うと感電する危険性があります。

⚠ 警告　取扱説明書に記載されている以外の間違った方法で交換すると機械が正常に働かないばかりか、感電や火傷をする危険性があります。

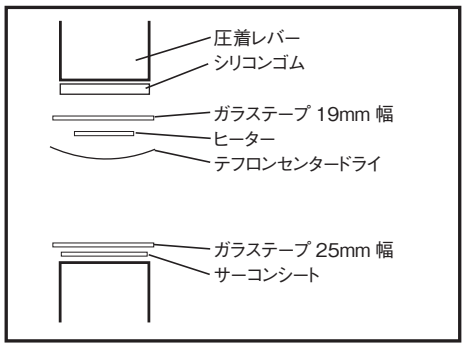
⚠ 警告　消耗部品は必ず弊社指定の部品をご使用ください。指定外の部品を使用されると製品の性能が正しく発揮できないだけでなく、故障の原因にもなります。

必ず電源プラグをコンセントから抜いて作業を行ってください。

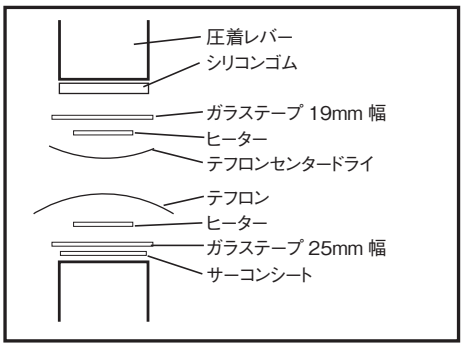
シール部の構造

シール部は下のイラストの部品から構成されています。部品交換の時は順番を間違えないように取り付けてください。

V-401NTW



V-401NTW-10W



主な部品の販売単位

長期間の使用で交換が必要となってくる主な部品は下記の単位で販売しています。
部品をお買い求めの際は、お買い上げの販売店または弊社までご注文ください。

部品名	販売単位
テフロン	1 セット 2 枚
シリコンゴム	1 セット 2 本
樹脂ナット（白）	1 セット 5 個
ガラステープ	5 M巻または 10 M巻（19mm 幅）　1 巻
サーコンシート	1 セット 2 本または 5 M巻　1 巻
ヒーター（10mm 幅）	1 セット 20 本または 1 セット 10 本
ヒーター（5mm 幅）	1 セット 20 本または 1 セット 10 本
テフロンセンタードライ	5 M巻　1巻

9-1　テフロンのずらし方

対象：V-401NTW-10W

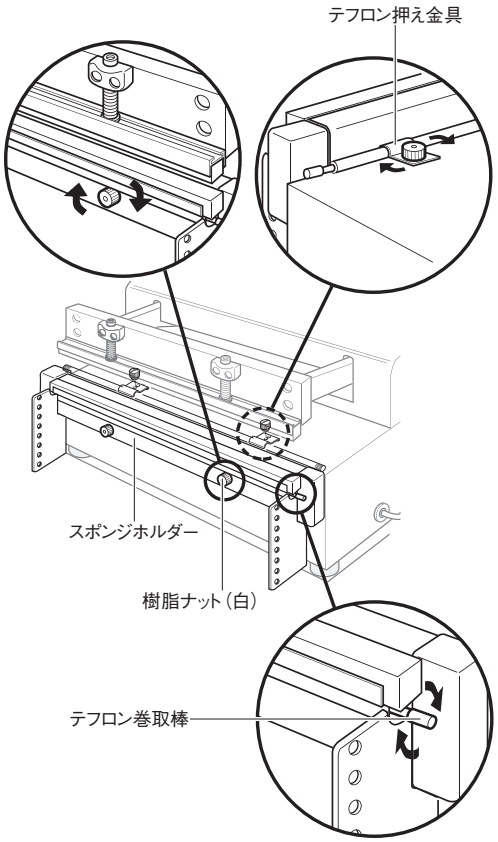
【必　要　物】 ハサミ

【交換の目安】 テフロンが変色し、袋がハガレにくくなった、テフロンが破れたり、焦げてシールが汚い

テフロンが傷みましたらヒーター上部にテフロンの新しい面が来るようにテフロンを前へずらして（引き出して）ください。

テフロンがヒーターにひっついている場合、端から丁寧にはがしてください。

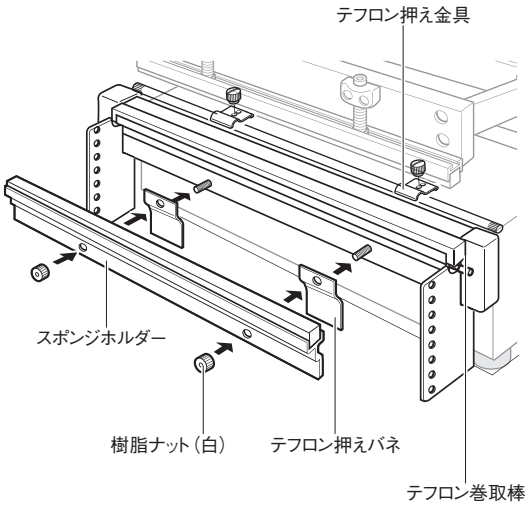
テフロンは予備として 25 ～ 30cm テフロン巻取棒に巻いてありますが、残り少なくなった場合は、「**9-2 テフロンの交換方法**」をご覧いただきテフロンをシートごと交換してください。



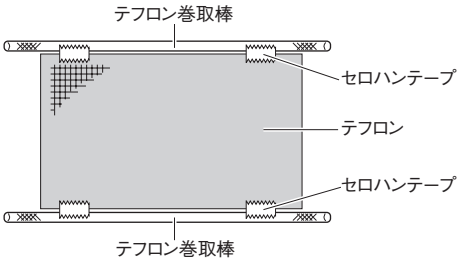
1　テフロン押え金具と、スポンジホルダーを固定している 4 個の樹脂ナット（白）を緩めます。
2　テフロン巻取棒をまわし、傷んだテフロンを前後どちらかに 15mm 程巻きます。
3　テフロンにたるみが発生しないように巻取り、テフロン押え金具とスポンジホルダーを 1 で緩めた樹脂ナット（白）で固定してください。

9-2　テフロンの交換方法

【交換の目安】 テフロンが変色し、袋がハガレにくくなった、テフロンが破れたり、焦げてシールが汚い



1　スポンジホルダーを固定している 2 ヶ所とテフロン押え金具を固定している 2ヶ所の樹脂ナット（白）を外します。
2　スポンジホルダーとテフロン押えバネを外し、テフロン巻取棒を抜き取りテフロンを外してください。
3　テフロン巻取棒に新しいテフロンをセロハンテープなどを使って貼り付けます。
4　スポンジホルダーとテフロン押え金具の間に、テフロン巻取棒を取り付け 4 ヶ所の樹脂ナット（白）仮止めをします。
5　テフロンがヒーター上部でシワにならないようにテフロン巻取棒を回してください。
6　4 で仮止めした樹脂ナット（白）を回してテフロン押え金具を締め付けテフロン巻取棒を固定してください。



9-3　テフロンセンタードライの交換方法

【交換の目安】　テフロンセンタードライが変色し、袋がハガレにくくなった、テフロンセンタードライが破れたり、焦げてシールが汚い

圧着レバーに貼り付けているテフロンセンタードライを新しいテフロンセンタードライに貼り替えます。

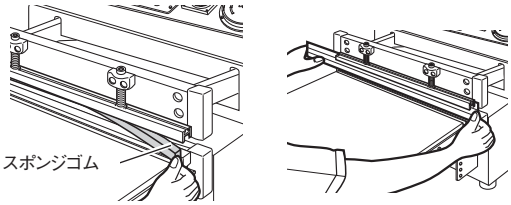
1　あらかじめスポンジゴムを取っておきます。（右イラスト参照）次に粘着テープが付いている面をシール押し板の方に向け、スポンジホルダーとシール押し板の隙間にテフロンセンタードライの一方の端を差し込みます。

2　シール部の長さに合わせてテープをハサミなどで切ってください。

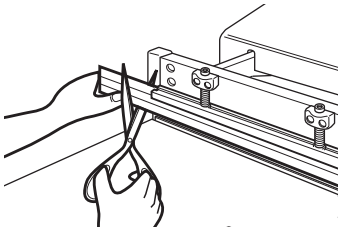
3　テフロンセンタードライのもう一方の端の粘着テープをシール押し板の奥側に貼り付けるようにテープを折り曲げて貼り付けてください。

注 ！　テフロンセンタードライの中心にヒーターが位置するようにして、ドライテープの両サイドを圧着レバーに貼り付けてください。
テフロンセンタードライにシワがある状態で貼り付けると、シールにもシワ模様が出ます。

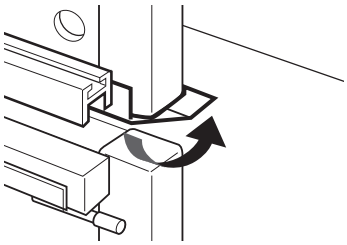
1



2



3



9-4　ヒーターの交換方法

【必　要　物】　プラスドライバー

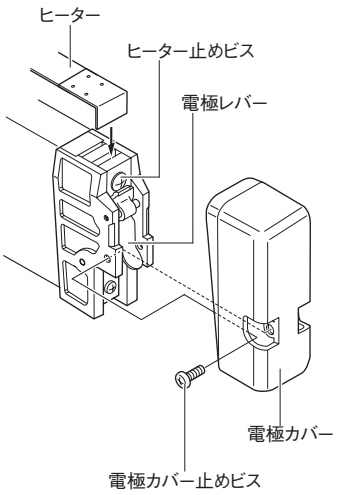
【交換の目安】　ヒーターが切れた、ヒーターの表面が凸凹になっている、シールが汚い

1　ヒーターはテフロンセンタードライ、テフロンで覆われています。「9-3 テフロンセンタードライの交換方法」および「9-1 テフロンのずらし方」を参考に、テフロンセンタードライまたはテフロンを外します。

2　プラスドライバーで電極カバー側面のビスを緩めると電極カバーが取り外せます。

3　電極レバーを上方向に起こし、ヒーター止めビスをプラスドライバーで緩めます。

4　電極ヒーター止めビスを緩めると傷んだヒーターが取り外せます。



次ページに続く

5　電極レバーを起こしたまま新しいヒーターを電極の溝にはさみ、ヒーターが電極から浮かないように押えながらヒーター止めビスをしっかり締めた後、電極レバーを降ろします。

6　1 で外したテフロンセンタードライ、テフロンを取り付けてください。

⚠ 注意　安全のため、ヒーター交換後は必ず電極カバーと取り付けてください。
交換用ヒーターは必ず弊社指定の専用ヒーターをご使用ください。 専用ヒーター以外のヒーターを使用されますと、トランス焼損の原因となります。

9-5　ガラステープ、サーコンシートの交換方法

【必　要　物】 ハサミ、プラスドライバー、アルコール（エタノール）

【交換の目安】 ヒーターがよく切れる、シールが汚い

⚠ 注意　ヒーター下部のガラステープ、サーコンシートが傷んだり焼損するとヒーターの絶縁不良や、シール不良の原因となりますので、ヒーターの交換時には必ず点検し、必要に応じて貼り替えてください。

1　テフロンセンタードライ、テフロン、ヒーターを取り除いてください。

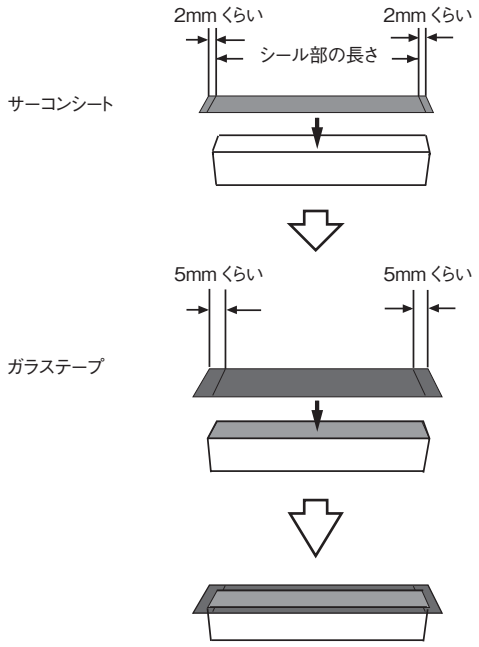
2　シール受け板に貼り付けられているガラステープとサーコンシートをきれいにはがしてください。

⚠ 注意　粘着のりが残っている上に貼り付けると、シール面が凸凹し、シールに悪影響を起こしますので粘着のりをきれいにアルコール（エタノール）で取り除いてください。

3　新しいサーコンシートをシール部の長さより左右それぞれ約 2mm ずつ長めにカットして貼り付けます。（1 枚）

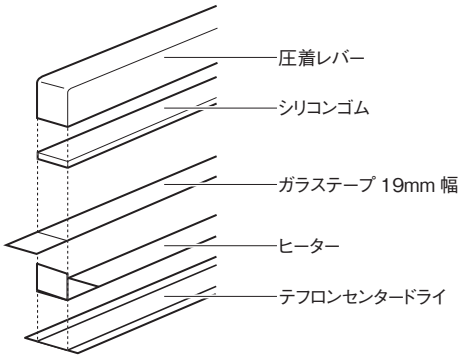
4　ガラステープをサーコンシートの上に重ねて貼り付けます。サーコンシートより左右それぞれ約 5mm ずつ長めにカットして貼り付け、両サイドは電極の上に重ねるように貼り付けてください。

注！　ガラステープ交換の際に、サーコンシートの貼り付け粘着力が低下していましたらガラステープとともにサーコンシートも交換してください。



9-6　シリコンゴムの交換方法

【必　要　物】 アルコール（エタノール）



1　テフロンセンタードライ、ヒーター、ガラステープをそれぞれの交換方法をご覧いただき、取り外してください。

2　シリコンゴムをはがし、圧着レバーなどに付着しているのりは、アルコール（エタノール）できれいに拭き取ってください。付着しているのりを取らずにシリコンゴムを貼り付けると、きれいなシールができない場合があります。

3　新しいシリコンゴムには、粘着テープが付いています。剥離紙を外し、端から順に貼り付けます。

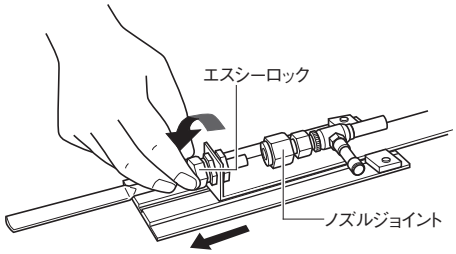
4　シリコンゴムを貼った後、その上にガラステープ、ヒーター、テフロンセンタードライの順に貼り付けてください。

9-7　ノズルの外し方

ノズルをシール部より後退させた初期位置に戻してから作業を行ってください。

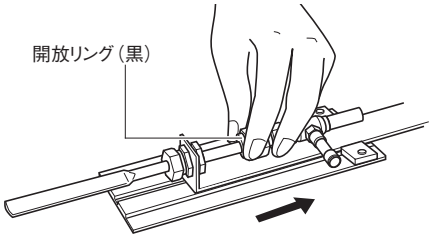
1　エスシーロックを緩めます。

1



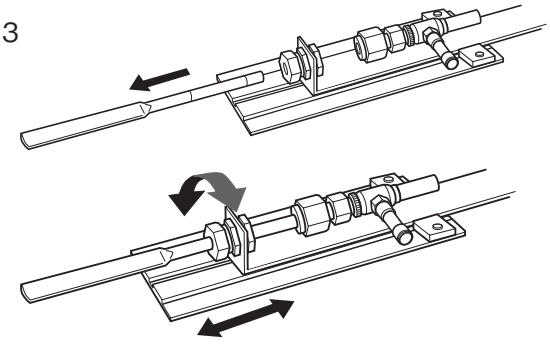
2　ノズルジョイントの開放リング（黒色）を指先で押しながら、ノズルを引き抜きます。

2



3　ノズルをエスシーロックより引き抜きます。

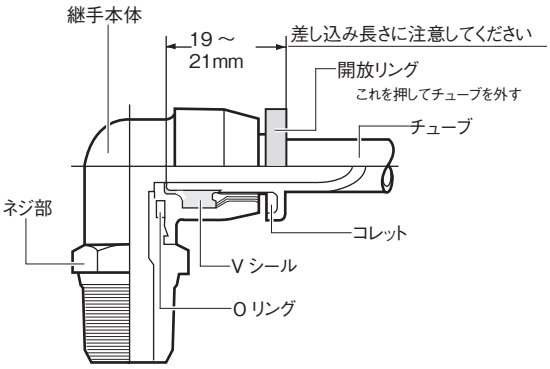
3



注！　ノズルの寸法調整は、エスシーロックを緩めることで調整できます。

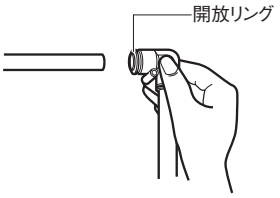
9-8　チューブの接続・離脱

配管チューブを抜き差しするとき、エルボ継手の開放リングを指先で押しながらチューブを抜いてください。



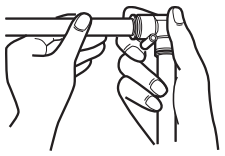
チューブの離脱

チューブを押し込みながら開放リングを平行に押すと、より容易にチューブを引き抜くことができます。



チューブの接続

チューブ装着時には、継手のチューブエンドまで完全に差し込んでください。



注！　チューブの差し込みが少ないとエア漏れを起こしますので確実にチューブを差し込んでください。

10 部品のメンテナンス

ノズル及びチューブの清掃

ノズルより吸引する異物により、ノズル、チューブ、継手などが詰まり脱気力を低下させる場合があります。定期的にノズルとチューブの清掃を行ってください。

特に肉汁や佃煮の汁のような粘り気のある液体を吸い込んでいる作業状態の場合は、ノズルやチューブ及び継手の内面に付着して吸引不良の原因となります。このような作業を行われている場合は、作業終了後に必ず洗浄してください。

洗浄のしかた

水を入れた袋を脱気する状態にセットをし、脱気シールする使い方と同じ手順でノズルから水を吸い込ませて洗浄します。

この時、シールしないように加熱時間を 0.1 に下げてください。

この洗浄作業を 3 ～ 4 回繰り返し、排出口から出てきた水の汚れ具合を見て作業を行ってください。ぬるま湯のほうがより効果的です。